

第5章

まとめ

第5章 まとめ

本実践報告書では、職場復帰支援において、休職者と事業主が職場復帰に向けた合意形成を行う際のポイントや合意形成後の円滑な支援や調整につなげるための支援ツール等を整理し、紹介しました。

職業センターでは、休職者、事業所担当者、支援者が必要な情報を整理し、共有することによって「職場復帰時に目指す状態像・ありたい姿」について共通認識を持ち、休職者が休職期間中に取り組む目標や実践内容を主体的に考え、選択し、具体的な行動につなげる後押しになる支援を大切に考えてきました。職場復帰に向けた各種調整には、職場とのコミュニケーション、スケジュール管理やタスク管理、状況に応じた計画の修正等、復帰後の仕事にも通じる要素が多く含まれています。「休職者の持っている力を活かし、主体性を支援する」ことで休職者がスムーズに職場復帰できるだけでなく、復帰後に健康的で安定した職業生活が送れる等、職場再適応を目指した職業リハビリテーションにつながると考えています。

これまで述べてきたように、休職者や事業所の状況はケースごとに異なるため、職場復帰に向けた支援内容も様々です。そのため一人一人、一社ごとにどのように調整を行っていけば良いか型通りにはいかず、個別性・多様性の高い支援は、型を作ること自体、難しさがあります。本実践報告書は職業センターの JDSP において普段実践していることや大事にしていることを言語化し、可視化したものです。全てのケースにあてはまる、活用できるものばかりではないと思われませんが、現場で新たに職場復帰支援に取り組む支援者の方には、調整に向けたアセスメントや支援方法を知る参考に、経験の豊富な支援者の方にとっては、多角的な視点から円滑な職場復帰を目指す支援方法を検討する手がかりやヒントとして、この実践報告書を活用していただけると幸いです。

地域センターでリワーク支援が開始されてから 20 年が経過しました。この間、医療機関におけるリワーク支援の拡大や、障害福祉サービス事業所での取組等、リワーク支援の裾野は確実に広がってきています。また、地域センターにおいても、本実践報告書でも紹介したように、それぞれの地域の実情に応じた取組や様々な工夫が行われています。一人でも多くの休職者が、円滑に職場に復帰し、納得感のある職業生活を送ることができ、再休職予防にもつながる職場復帰や職場再適応が促進されることに、本実践報告書で紹介した支援技法が少しでも役立つことを期待しています。

